グスタフ・ランダウアー

コーリン・ウォード

となり、アナキズム思想の宣伝機関になった。それはちょうど、S中産階級の家庭に生まれ、学生時代、ドイツ社会民主党(SPD)中産階級の家庭に生まれ、学生時代、ドイツ社会民主党(SPD)中産階級の家庭に生まれ、学生時代、ドイツ社会民主党(SPD)中産階級の家庭に生まれ、学生時代、ドイツ社会民主党(SPD)中産階級の家庭に生まれ、学生時代、ドイツ社会民主党(SPD)中産階級の家庭に生まれ、学生時代、ドイツ社会民主党(SPD)中産階級の家庭に生まれ、学生時代、ドイツ社会民主党(SPD)中産階級の家庭に生まれ、学生時代、ドイツ社会民主党(SPD)中産階級の家庭に生まれ、学生時代、ドイツ社会民主党(SPD)中産階級の家庭に生まれ、学生時代、ドイツ社会民主党(SPD)

PDが全ヨーロッパ労働運動にその硬直した議会主義的社会主義を PDが全ヨーロッパ労働運動にその硬直した議会主義的社会主義を がる。

「もし第二インターナショナルの大会がその本性を隠さず、そ を送りはしなかったであろう。けれども国際社会主義的社会主義の国際大会であり、社会民主党の国 を送りはしなかったであろう。けれども国際社会主義労働者大会 を送りはしなかったであろう。けれども国際社会主義労働者大会 を対ならアナキストもまた、まさに社会主義者なのだから。アナ キストは経済の独占に反対し、少数者の利潤ではなく、万人の必 要の充足を目ざす、人間の共同労働の形態に賛成しているのだ。 さらに多くの国々の大多数のアナキストが労働者階級に属してい さらに多くの国々の大多数のアナキストが労働者階級に属してい さらに多くの国々の大多数のアナキストが労働者階級に属してい さらに多くの国々の大多数のアナキストが労働者階級に属してい さらに多くの国々の大多数のアナキストが労働者階級に属してい さらに多くの国々の大多数のアナキストが労働者階級に属してい さらに多くの国々の大多数のアナキストが労働者階級に属してい

SPDを追放されたドイツ人たちはチューリッヒ大会の第一目目に現われ、出席を要求し、イギリスの労働組合代表たちの思いがけない支持を受けた。SPDの指導者ベーベルは彼らを口汚く詈り、ない支持を受けた。SPDの指導者ベーベルは彼らを口汚く詈り、ない支持を受けた。SPDの指導者ベーベルは彼らを口汚く詈り、大会出席者を政治活動を認める労働組合と党派に制限するという動議を可決させた。「信じられないような混乱となり、『抗議するぞ』と叫ぶヴェルナーとランダウアーは 会場から 押し出された」。そして翌日十五名の代表が排除されたが、そのなかにはローザ・ルクセンブルクがいた。彼らはアミルカーレ・キプリアーニと一緒になった。キプリアーニは彼の委任状を破り棄て、「わたしは諸君が追いた。キプリアーニは彼の委任状を破り棄て、「わたしは諸君が追いはした人々、諸君の偏狭と野蛮さの犠牲者たちと行を共にする」と出した人々、諸君の偏狭と野蛮さの犠牲者たちと行を共にする」と表明した。

一八九六年、国際社会主義労働者大会がロンドンのクイーン・ホールで開催されたが、七百五十名の代表のうちには大勢のアナキスールで開催されたが、七百五十名の代表のうちには大勢のアナキスールで開催されたが、七百五十名の代表のうちには大勢のアナキスールで開催されたが、七百五十名の代表のうちには大勢のアナキスールで開催されたが、七百五十名の代表のうちには大勢のアナキスールで開催されたが、1000年には、

「ドイツ人共はこの件で大会を遮二無二に押し切ろうとしたので、非常に多くの代表の噴激を買った。第二日の議長は国会議員で、非常に多くの代表の噴激を買った。第二日の議長は国会議員党のケア・ハーディが立ち上り、騒ぎを圧する大声でイギリスの党のケア・ハーディが立ち上り、騒ぎを圧する大声でイギリスの場合のように会議が運ばれていないではないか、とシンゲルに言場のように会議が運ばれていないではないか、というとしたの件で大会を遮二無二に押し切ろうとしたの「ドイツ人共はこの件で大会を遮二無二に押し切ろうとしたの「ドイツ人共はこの件で大会を遮二無二に押し切ろうとしたの

ランダウアーは大会への報告を読みあげた(その報告はフリーダム・プレスからリーフレットで 発行された)。彼の SPD弾劾の言な・プレスからリーフレットで 発行された)。彼の SPD弾劾の言な・プレスからリーフレットで 発行された)。彼の SPD弾劾の言な・プレスからリーフレットで 発行された)。彼の SPD弾劾の言な・プレスからリーフレットで 発行された)。

っている。」 したにすぎない。この集権的で、後見人気取りの、ひっきりなし 議会や各種委員会でせっせと仕上げた労作なのだ)は、国家と警 に打ち込んでいる人々、自由な社会主義社会の実現をめざして闘 ものにすぎず、人間社会の全体的な再生に徹底的に、また良心的 わが社会民主主義者が考えているのかどうか、ますます疑問にな ツ帝国をかの名高い未来国家に変革するために必要な一切だと、 に干渉する警察国家に、ただ最後の仕上げを加えることが、ドイ 話にならぬほど少数である。……法律(それは社会民主党議員が っている人々の数は、現実には社会民主主義の投票者に比べてお に宣言する、 のがわたしの義務だと、わたしは考える。そしてわたしは真面目 ューリッヒの時のように、今日もこの彩られた仮面を引きはがす 「ドイツの革命家として、またアナキストとして、三年前のチ 今日のドイツープロイセンー王制ー資本主義国家を強化 ドイツにおける労働運動の表面上の壮観さは皮相な

た。 ランダウアーはアナキストの立場に耳を傾けるよう代 表 に 訴 え

ある。 われに対する寛容を要求する。そしてまた、革命的社会主義者が 違っているとか考えるにせよー ランダウアー『ドイツの社会民主主義』フリーダム・プレス ている人々はより正しくわれわれに教えてほしい。……」(G・ もしわれわれの思想が間違っているなら、より正しいことを知っ れは居たいし、われわれが語らねばならぬことを語りたい。…… 会するところ、すべての国々の労働者が会するところに、われわ の手段で粉砕しようとは思わない。同じように、われわれはわれ違っているとか考えるにせよ――われわれは彼らを暴力やその他 もの、それがわれわれである。 在、すべての束縛から解放された心、独立、そして万人の福祉で である。 八九六年) あらゆる他党派をまえにして、すべてに対する寛容を説く われわれが提唱するのは自由社会主義と組合、権威の不 われが闘うのは国家社会主義、上からの平均化、 -彼らの意見が正しいとか、間

ディが演壇に立った。ケア・ハーディは次のように述べた。ダウアー、マラテスタ、非アナキストではトム・マン、ケア・ハーれ、クロポトキン、ルイズ・ミッシェル、エリゼ・ルクリュ、ランれ、クロポトキン、アナキストたちは排除された。抗議集会が開か

この頃、ランダウアーはアナキストの編集者が常に直面する問題を取るか、それともアナキストのそれのようになるか、だれも態を取るか、それともアナキストのそれのようになるか、だれも態を取るか、それともアナキストのそれのようになるか、だれも態を取るか、それともアナキストのそれのようになるか、だれもがまかり通るのだったら、社会主義運動は全体として存立する権利を失う。なぜならそれは少数を代表するものなのだから。」「将来の社会主義が社会民主主義者の思い描いているような形での頃、ランダウアーはアナキストの編集者が常に直面する問題との頃、ランダウアーはアナキストの編集者が常に直面する問題との頃、ランダウアーはアナキストの編集者が常に直面する問題という。

に悩まされた。彼は『デア・ゾチアリスト』を知的水準の高い新聞に悩まされた。彼は『デア・アルメ・コンラート』も刊行するととに同意した。ロッカーの言うところでは、ヴァイドナーは「最善を尽くした。……だがランダウアーは、アルベルト・ヴァイドナー間の編集する煽動宣伝紙『デア・アルメ・コンラート』も刊行するととに同意した。ロッカーの言うところでは、ヴァイドナーは「最善を尽くした。……だがランダウアーの反対者たちを満足させるにいを尽くした。……だがランダウアーの反対者たちを満足させるにいわらなかった。彼らはあらたにもっと大きな新聞を始めた。一方、カンダウアーの『ゾチアリスト』は次第に消えていった。新しい新聞の編集は稚拙で、文章もまずかった。普通の労働者たちの手で一切やられたのだからという言訳も、あまり慰めにはならなかった。サンダウアーにとってそれは悲劇だった。それは彼から価値ある仕事を奪ったのだ。彼はこの仕事にうってつけだったし、また見事にその任務を果たしていたのだ。」

一九○一年、彼はマックス・ネットラウと一緒にバクーニンの選集を一巻編集した。「わたしはバクーニンを知ったその日から、彼集を一巻編集した。「わたしはバクーニンを知ったその日から、彼りに、尊敬した。なぜなら彼のほど生き生きと書かれた論文はめた。つ九○五年、農業と工業の統合というクロポトキンの見解にいる。一九○五年、農業と工業の統合というクロポトキンの見解にいる。一九○五年、農業と工業の統合というクロポトキンの見解にいる。一九○五年、農業と工業の統合というクロポトキンの見解にいる。

こそが真の社会主義の始まりであり、われわれに残された唯一の風変りにみえるかもしれないが、この考えになじみたまえ それ義村……大都市のプロレタリア諸君、はじめのうちそれは奇妙で「仕事場と村工場をもち、田畑と牧草地と菜園をもった社会主

道なのだ。」

また二年後に彼は言明している。

「すべての社会主義者のなかで最も偉大な社会主義者――プルードン――が、いまでは忘れられているが、比類なき言葉で述べたように、社会革命は政治革命といきさかも類似していないことが早かれ遅かれる社会主義者のなかで最も偉大な社会主義者――プルーでは、「すべての社会主義者のなかで最も偉大な社会主義者――プルーでは、「すべての社会主義者のなかで最もない。」

「国家はある条件、人間間のある関係、人間行動のある様態であることが他日理解されるだろう。」 によりそれを破壊する。……社会主義はなにか新しいものの発明ではなく、実際にあるなにか、生成しているなにかの発見であることが他日理解されるだろう。」

家の背後にとらえられている精神の解放」を可能にする。組織より以上に社会生活の保持、革新、拡大を可能とし、また「国の相互扶助を掘りだし、表面化させることであった。それらは国家の柑互扶助を掘りだし、表面化させることであった。それらは国家の世の共有的な社会制度と本来彼が望んだのは国家の代わりに、古代の共有的な社会制度と本来

偉大な実験に引き込みたい」。彼は言う、すべての真の社会主義はいる協同組合や、役に立たない勇気である労働組合を社会主義に、「われわれは内容は社会主義でないのに形だけ社会主義となって

見出さない」。 ものを追求するから、自然、言葉の上の始まり以外どんな始まりもものを追求するから、自然、言葉の上の始まり以外どんな始まりも相対的であり、決して絶対的ではない、と。「共産主義は絶対なる

前の一時なのである。」 生涯をもたぬすべての者にとって、革命後の時間はいずれも革命生涯をもたぬすべての者にとって、革命後の時間はいずれも革命でなにごとも時機がある。過去のある偉大な瞬間に足踏みする

一は言っている。 するない。フランス革命の意義を研究するなかで、彼は次のことに気 をランダウアーは主張する。というのは革命の力は反逆と否定のう ちにあるからである。政治的手段で社会的問題を解決することはで ちにあるからである。政治的手段で社会的問題を解決することはで ちにあるからである。政治的手段で社会的問題を解決することはで ちにあるからである。政治的手段で社会的問題を解決することはで ちにあるからである。政治的手段で社会的問題を解決することはで ちにあるからである。政治的手段で社会的問題を解決することはで ちにあるからである。政治的手段で社会的問題を解決することに、 さない。フランス革命の意義を研究するなかで、彼は次のことに気 さない。フランス革命の意義を研究するなかで、彼は次のことに気 さない。フランス革命の意義を研究するなかで、彼は次のことに気

「フランス革命の時のように、革命が内外いたるところでついてあた間まれるという怖しい状況になった場合、なお健全である否定と破壊の力は内に向い、自らに対さざるをえない。狂信と激情は不信に転じ、やがて血に餓え、あるいは少なくともつのりゆく殺害の恐怖に無頓着になり、そしてまもなく殺害がその時の支配者にとって一時的に権力を握っていられる唯一の可能な手段と敬る。」

そして十年後、彼は同じフランス革命について書いた。

りだされたにせよ、彼らが最上の時には人類を再生へ導いている熱烈な代表者たちは、荒れ狂う嵐のためにあらぬ岸辺に結局ほう「こうして以下のようなこととなった。すなわち、革命の最も

に結びついたからであった。」 独裁、強権的抑圧――要するに政治れは革命自身が戦争、暴力、独裁、強権的抑圧――要するに政治たらず、彼らは互いに違った道を取り、たがいに置りあった。そと考えていたし、信じてもいた。だがどういうことか再生にはい

に破滅した革命の犠牲となった。

一九一二年のドイツの選挙で、SPDは国会における最大の単独た。第一次世界大戦前夜、ブリュッセルで社会主義インターが開催た。第一次世界大戦前夜、ブリュッセルで社会主義インターが開催され、ジャン・ジョレスはSPDの力にその信念を託した。彼はある友人に述べた。「心配しなさんな。四百万のドイツ社会主義者がる友人に述べた。「心配しなさんな。四百万のドイツ社会主義者がる方人に述べた。「心配しなさんな。四百万のドイツ社会主義者がる方人に述べた。「心配しなさんな。四百万のドイツを主義者がる方人では、一次の選挙で、SPDは国会における最大の単独かった。彼は一九一四年に書いている。

「今日、すべての国々の情況についていささかも幻想を抱いている、そくやすやすとナポレオンとかカブールとかビスマルクといった手合いに率いられて政治の大勢に従っていく。なぜならこれらの反乱は実際は政治革命か国民戦争の手段にすぎず、決して社らの反乱は実際は政治革命か国民戦争の手段にすぎず、決して社会主義的変革の手段とはなりえないからである。社会主義者がいつも、そして必然的に彼らの敵の手段を利用するロマン主義者がいつも、そして必然的に彼らの敵の手段を利用するロマン主義者がいつも、そして必然的に彼らの敵の手段を利用するロマン主義者がいった。そして必然的に彼らの敵の手段を利用するロマン主義者がいった。

八月四日、社会主義者は全員一致して政府の戦時債券に賛成投票

40

「だれもが真理の声を待ち望んでいる時にあたって、この真摯「だれもが真理の声を待ち望んでいる時にあたって、この社会はう生涯、この社会体制の没落を目ざして働いてきた。この社会はう生涯、この社会体制の没落を目ざして働いてきた。この社会はうた。その時の始まりに向けて、わたしは準備しておこう。」」

「だれもが真理の声を待ち望んでいる時にあたって、この真摯でいる。その時の始まりに向けて、わたしは準備しておこう。」」

義の温存に努めた。 養の温存に努めた。 養の温存に努めた。 大学であるためた。 で、将校団の軍国主義とユンカーの封建主義と大実業家の資本主義の温存に努めた。。 大学の社会主義政府はあらゆる犠牲を払いた、シャイデマン、ノスケの社会主義政府はあらゆる犠牲を払いた。 で、将校団の軍国主義とユンカーの封建主義と大実業家の資本主義の温存に努めた。。

ッツェンコッターがその成行きを記している。

、日号)に「ミュンヘンの評議会共和国」を書いたウィリー・フリンダウアーの役割については、『フリーダム』(一九五三年九月二十した。エーリッヒ・ミューザムや、革命当初にミュンヘンに来たラン共和国を宣言し、独立社会党のクルト・アイスナーが内閣を組織ン共和国を宣言し、独立社会党のクルト・アイスナーが内閣を組織と共和国を宣言し、独立社会党のクルト・アイスナーが内閣を組織といっている。

組織することだった。この評議会はその後イニシアチブを取っ にするようアイスナーに圧力をかけたからである。」 監獄から釈放された。というのは『労働者評議会』が彼らを自由 ミューザムや彼の同志たちは、『労働者評議会』によって次の日 を彼らが妨害すると、アイスナーが危惧したからであった。だが 望んだ。彼らは議会をバイエルンにおける真の立法者たらしめ、 央集権化されてはならなかった。この革命的運動に反対して、ア 送るはずであった。ミューザムとランダウアーの計画によれば、 会はすべて代表を選出し、彼らをミュンヘンの『評議会大会』に や各村の運営にあたるはずであった。地方におけるこれらの評議 は各市に組織され、(『水兵と農民の評議会』と結びついて)各市 て、各職場に『革命的職場組織』をこしらえた。これらの評議会 月十日に逮捕した。理由は一月十二日に行われるはずの議会選挙 イスナーとアウエルは反動勢力と手を結んだ。彼らは議会選挙を これらの評議会や大会は連合を基盤にして運営されるべきで、 『労働者評議会』を否応なく無意義にさせようと目ざしていた。 アイスナーはミューザムや十一名の革命家たちを一九一九年一 「二人のアナキストの最初の仕事は『革命的労働者評議会』を

一月、バイエルンの貴族がアイスナーを暗殺した。社会民主党員

で)評議会共和国につき次のように説明している。 ルース・フィッシャーは(その著『スターリンとドイツ共産主義』ルース・フィッシャーは(その著『スターリンとドイツ共産主義』ルース・フィッシャーは(その著『スターリンとドイツ共産主義』ルース・フィッシャーは(その著『スターリンとドイツ共産主義』ルース・フィッシャーは(その著『スターリンと折衝を始めた。「しかョハン・ホフマンが彼に代わり、ベルリンと折衝を始めた。「しかョハン・ホフマンが彼に代わり、ベルリンと折衝を始めた。「しかョハン・ホフマンが彼に代わり、ベルリンと折衝を始めた。「しか

「社会主義共和国たることを宣言するミュンヘン労働者兵士評議会を、エーリッヒ・ミューザムは提案した。この提案は二三四対一つで採択されたが、スパルタクス団は反対に回った。……最冒険として描かれるのがつねである。……その後、彼らはいずれ冒険として描かれるのがつねである。……その後、彼らはいずれも真剣な闘士であったことが明らかにされた。彼らは自分たちが長沢した理想に殉じたのだ。」

て、社会民主党は数人の評議会のメンバーを逮捕し、彼らを北バイ議会の辞職を要求した。四月十三日、王党派守備隊の助けを借り共産主義者は彼らのいうこの「えせソヴェト」を非難し、中央評

またいのでは、 でいるプラスケの十万の軍隊がバイエルンへ向かった。 議会が新しいソヴェト内閣をこしらえた。そのあとフォン・オーヴ にいいのでは、共産主義者部隊が守備隊を破り、革命評 にいいのとのでは、 にいいのでは、 にいい

「彼の軍隊が粉砕したのは一握りの人々ではなかった。方法は『ある革命の敗北』で、ルドルフ・コーザーは言っている。

本命評議会はノスケの軍隊と戦っても勝昧のないことを悟り、 立った。 立った。 立った。 本の軍隊が教祀したのに、別の手段で軍国 たのである。……彼らに対してなされたことは、別の手段で軍国 たのである。……彼らに対してなされたことは、別の手段で軍国 なんであれ、ドイツ国家の実体を変革できるという思想を粉砕し

イセンの侵略を出し抜くためにホフマンと協定した。」最初のソヴェト政府の残党との連帯を宣し、破局を回避し、プロ革命評議会はノスケの軍隊と戦っても勝味のないことを悟り、

を伝えている。 ランダウアーがいた。彼と一緒に捕えられた労働者がその死の模様ランダウアーがいた。彼と一緒に捕えられた労働者がその死の模様

う一度頑張り、しゃべろうとした。だがひとりの兵士が彼の頭をなかで、バイエルンとヴュルテンベルゲルの歩兵からなる護送隊なかで、バイエルンとヴュルテンベルゲルの歩兵からなる護送隊なかで、バイエルンとヴュルテンベルゲルの歩兵からなる護送隊なかで、バイエルンとヴュルテンベルゲルの歩兵からなる護送隊なかで、バイエルンとヴュルテンベルゲルの歩兵からなる護送隊なかで、バイエルンとヴュルテンベルゲルの歩兵からなる護送隊なかで、バイエルンとヴュルテンベルゲルの歩兵からなる護送隊なかで、バイエルンとヴュルテンベルゲルの歩兵からなる護送隊なかで、バイエルンとヴュルテンベルゲルの歩兵からなる護送隊なかで、バイエルンとヴュルテンベルゲルの歩兵からなる護送隊なかで、バイエルンとヴュルテンベルゲルの歩兵からなる護送隊なかで、バイエルンとヴュルテンベルゲルの歩兵からなる

れただ。 まだ彼は息をしていた。 その男は言った、『呪われた死撃った。 まだ彼は息をしていた。 その男は言った、『呪われた死撃。

42

場に放り込んだ。」
そこで護衛隊の下士官が叫んだ。『奴の上着を脱がせろ!』兵士たちは彼の上着を取り、腹ばいに寝かせた。『うしろへ退れ。古中を撃った。それでもランダウアーはもがいていたので、兵士たちは息が絶えるまで踏みつけた。それから彼を裸にし、洗濯士たちは息が絶えるまで踏みつけた。『奴の上着を脱がせろ!』兵場に放り込んだ。」

り殺された。 一九三四年、ミューザムはオリエンベルグの強制収容所でナチによトラーとミューザムはそれぞれ五年間、要塞監獄にいれられた。

えて、国際社会史研究所に納めたのだった。
した。大学には、ナチはランダウアーの遺体を堀り出し、ミュンヘンのユダヤ人地区に送った。数年前、アムステルダムのアダマ・ヴァのユダヤ人地区に送った。数年前、アムステルダムのアダマ・ヴァのユダヤ人地区に送った。数年前、アムステルダムのアダマ・ヴァの追と娘婿を訪ね、彼の文書や原稿を受け取り、ひそかに国境を越の成と娘婿を加り出し、ミュンヘンー九三三年、ナチはランダウアーの遺体を堀り出し、ミュンヘンー九三三年、ナチはランダウアーの遺体を堀り出し、ミュンヘン

年代の第一インターにおけるマルクスとバクーニンの場合とおなじるの、人民への情熱的な共感に駆り立てられて政治的に行動しったのに、人民への情熱的な共感に駆り立てられて政治的に行動しったのに、人民への情熱的な共感に駆り立てられて政治的に行動しったのに、人民への情熱的な共感に駆り立てられて政治的に行動しったのに、人民への情熱的な共感に駆り立てられて政治的に行動しったの第一インターにおけるマルクスとバクーニンの場合とおなじったの第一インターにおけるマルクスとバクーニンの場合とおなじったの第一インターにおけるマルクスとバクーニンの場合とおなじったの第一インターにおけるマルクスとバクーニンの場合とおなじったの第一インターにおけるマルクスとバクーニンの場合とおないのでは、人民への第一人に対している。

社会というヴィジョン以上に馬鹿らしいものだろうか。社会というヴィジョン以上に馬鹿らしいものだろうか。社会というヴィジョン以上に馬鹿らしいものだろうか。社会というヴィジョン以上に馬鹿らしいものだろうか。社会というヴィジョン以上に馬鹿らしいものだろうか。社会というヴィジョン以上に馬鹿らしいものだろうか。社会というヴィジョン以上に馬鹿らしいものだろうか。社会というヴィジョン以上に馬鹿らしいものだろうか。社会というヴィジョン以上に馬鹿らしいものだろうか。社会というヴィジョン以上に馬鹿らしいものだろうか。社会というヴィジョン以上に馬鹿らしいものだろうか。

エルンソヴェト共和国およびバイエルン評議会共和国 (Bayrische 難だが、いくつかの点は考察に価いする。それはさまざまな形でバイ の断片的で矛盾した説明から、 キズムの化身」で事実あったのだろうか。いま手に入れうるかぎり ショナル』で呼んだように、それは「非実際的なロマン主義的アナ たらよいだろうか。ジェームズ・ジョルがその著『第二インターナ ンヘンを守ろうとしたミュンヘン労働者の圧力に抵抗できなかった つけるためにボリシェヴィキが横取りした「すべての権力をソヴェ Raterepublik) に関わっている。 は非常に単純である。共産主義者は守備隊の奇襲後、噴激し、 った。共産主義者は評議会共和国に反対した。それならばなぜ彼ら ソヴェトは評議会のロシア語で、全く正反対の政策への支持を取り ところでミュンヘン評議会共和国について、われわれはどう言っ へ」というスローガンは、 で「第二のソヴェト内閣」をこしらえたのか。 ス・フィッシャーは説明している。 ロシア革命後の数年間、 ある確固たる結論に達することは困 これはそれ自体では意味がない。 広く行きわた 一理由

ランダウアー内閣は政府だったのか。これは名称の問題である。

側に』『それに沿って』社会を建設すること」とみなしていた。外で自由軍団による抑圧までの全期間続いた、とフリッツェンコッ及び自由軍団による抑圧までの全期間続いた、とフリッツェンコット」だった。評議会共和国は六カ月間、すなわち退位からドイツ軍ト」だった。評議会共和国は六カ月間、すなわち退位からドイツ軍

成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫成功の機会はあったろうか。元共産主義者としてフィッシャー夫人は、「冒険主義的な人」というない。元共産主義者としてフィッシャー夫人は、「同様会は、「同様会に、「同様会に、「同様会に、「同様会に、」というない。

「彼らの大多数は革命家ではなかった。食糧はミュンヘンにたにもかかわらず、彼らは首府を封鎖した。食糧はミュンヘンにたにもかかわらず、彼らは首府を封鎖した。食糧はミュンヘンにたにもかかわらず、彼らはならの国の運営に発言することを求めな位置を占めた。彼らは彼らの国の運営に発言することを求めな位置を占めた。彼らは彼らの国の運営に発言することを求めな位置を占めた。彼らは首府を封鎖した。食糧はミュンヘンにたにもかかわらず、彼らは首府を封鎖した。食糧はミュンヘンにたいた。

(四八ページへつづく)

したことの別の表現なのである。

間の私的活動と恣意的行動を可能にした経済的・社会的構造が成立

しなくてはならない。過去の歴史過程の束縛から解放されているわしなくてはならない。過去の歴史過程の束縛から解放されているわの蓄積と方法とであり、社会関係をどのようにして再構成するかとの蓄積と方法とであり、社会関係をどのようにして再構成するかという課題である。諸個人の自立と恣意性を最大限に追究し得る意図的な社会関係を形成し実在化すること、そうした関係を支え保障し的な社会関係を形成し実在化すること、そうした関係を支え保障しの社会関係を形成しません。

結語 社会契約としての関係

個々人が決して他に譲ることのできない固有の自立した存在であるならば、個人はどのような状況下においても単独であり続け何もでも埋めることのできない淵をもちつづけていくならば、との隔りをめぐる一つの関係の成立とは、一つの約束すなわち契約にもとづく。そして、恣意的あるいは意図的な社会結合、社会関係の形成の人。そして、恣意的あるいは意図的な社会結合、社会関係の形成の力の表現は契約(社会契約)である。そこでは類的諸個人による契別の表現は契約(社会契約)である。そこでは類的諸個人による個別的な社会契約が存在するのであめではなく、個的諸個人による個別的な社会契約が存在するのでありではなく、個的諸個人による個別的な社会契約が存在するのでありではなく、個的諸個人による個別的な社会契約が存在するのでありではなく、個的諸個人による個別的な社会契約が存在するのでありではなく、個的諸個人による個別的な社会契約が存在するのでありではなく、個的諸個人による個別的な社会契約が存在するのでありではない。

会的関係の実在と自主的な相互作用における等価交換とそが、恣意であり、関係の実体においても同様に等価であり続ける。との、社交換によって実体化される。すなわち契約はその意図において等価契約にもとづく相互の関係は、契約の基本的原理にもとづく等価

うに等価である。べき原理であって、それはあくまでも作用が等しい反作用を伴うよべき原理であって、それはあくまでも作用が等しい反作用を伴うよ的意図的な社会関係の出発点であり、かつ到達点として完結される

(四三ページよりつづく)

反動的な自 義はい いてい は不可能だ。」 めないか、見かけは求めても、実行することができない場合、それとがそれを求め、かつ実行する時に社会主義は可能だ。人びとが求 政治暴力への忠誠から人びとを引き離すことに失敗したからであ たか 評議会共和国が敗北したのは、 たからであった。数年前にランダウアーは書い な自由軍団から兵士を呼び戻せなかったからであり、らではなかった。農民を引きつけられなかったからで ついかなる時でも可能だし、また不可能だ。しかるべき人び ツ社会民主党自体があまりにも深くドイツの反動に結びつ 十分な人びとの支持を得られ ったからであ 一社会主 政党や なか

ここに評議会共和国が敗北をよぎなくされたことの意味がある。『方向指示』に再録された「ある死の回想」のなかで、マルティッ・ブーバーは結論している。「ランダウアーは革命のために薬論に反対して革命のなかで関った。革命はそのことのゆえに彼に感謝するだろう。」(『アナーキー』 54 号 のゆえに彼に感謝するだろう。」(『アナーキー』 54 号 に関った人びとも彼に感謝するだろう。」(『アナーキー』 54 号 に対応している。